平成 24 年 6 月 1 日
第 61 号

やかたばら環境通信

◇◇ 発行 ◇◇
八方原の環境を守る会
代表 黒瀬和美
電話 972・5819

地区の共同作業で取り組み

田植えのシーズンを目前に控え、用水路の一斉清掃が行われました。農家だけでなく一般住民も参加しての始めての試みです。


水路の底で泥を掘り上げ、引き上げる。一度に多くは上がらない

毎年、用水路の使用前に行っていた水路清掃は従来農家の仕事して行われてきました。しかし、水路の使用は地区住民の全体の責任でもあることから、1班を除いた地区全体で取り組むことになりました。

5月27日はさわやかな天候に恵まれ、非農家の方々の参加もあって、作業は予定の時間よりも大幅に早く終えることができました。

水路の底にはところどころ土砂がたまっていました。例年に比べると量も多く、また全体にたい積が広がっているような状況でした。

また、今回は先日まで当地区の公共下水道工事を担当していた工和建設さんから6名の屈強な若者が参加してくださいました。


作業前の手順の説明、班別に分かれて作業

八方原の環境を守る会では、今後もこうした共同作業を、日当支払という形で支援してまいります。皆さまのご理解を頂きますように。よろしくお願いいたします。

泥上げ作業もスムーズに


一年間には相当な量の泥が溜まっている

水路の中でも農業用の落水路（農家で言われる悪水）の清掃はかなり負担の多い仕事です。従来は所有者が隣接する水路の泥上げを南北交互に行ってきました。

この作業については作業量に応じて日当支払を行ってきましたが、実態とそぐわないこともありました。結局、本年度からは農家を中心に共同作業で行うことになりました。

入念な計画で行われたので、予定時間をすこし残して作業を終えることができました。皆さんご苦労様でした。

この通信は http://www.harataco.org/sigeki/ で読むことができます

タケノコ掘りを体験

竹林伐採事業できれいになったタケノコ山では、タケノコがたくさん生えてきました。4月28日に、山口県や関係団体の主催で、タケノコ掘り体験会が行われ、家族連れなど50人以上が参加しました。

タケノコは季節の食べ物として親しまれていますが、地元では、昔ほどたくさん食べなくなってきました。

今回のタケノコ掘りには、始めてタケノコを掘るという人も少なくありませんでした。家族で掘り出すタケノコはまた格別の味でしょう。

県ではこれから3年間竹林の繁茂を防ぐための作業を続けていくとのことでした。



「あった！」始めて見る土の中のタケノコ

スポーツ万歳

ハッスルプレイ続出

小郡地域大運動会

小郡地域大運動会が5月20日、小郡中学校グラウンドで行われました。今回は27地区が参加し、熱戦を繰り広げました。ゲームに勝ち負けはつきものですが、スポーツを通じて地区の融和と絆の確認をするというのが一番の目的。

成績は矢足区が34点で第1位、第2位は33点のわかば台でした。八方原チームは14点を獲得に止まりましたが、参加の内容は満点です。



アベックトリムリレーでは2点獲得



こぼさないでね！絆バケツリレー

実践さながら、落ち着いて避難

平成23年3月11日の東日本大震災によって多くの尊い命が失われてしまいました。災害はどのような形で来るのか予想できません。山口市の指導もあり、本年度から当地区でも避難訓練をすることになりました。

5月13日、「八方原公民館で火災が発生した」という設定で避難訓練が行われました。利用者の安全な避難誘導、怪我人が出たという想定での搬送訓練、そして初期消火訓練がほぼ予定通りに行われました。

発生からおよそ4分で予定の行動は順調に終えることができましたが、実際の災害時には、このような落ち着いた行動ができるでしょうか。いつも災害に備える心がけが必要です。



怪我人の担架による搬送訓練

新体制で第2期のスタート

八方原の環境を守る会の定例総会が5月18日八方原公民館で開催され、殆どの会員の方の出席を頂きました。

議事では。平成23年度の事業報告と収支決算報告、平成24年度の事業計画と予算案が審議され、いずれも原案の通り承認されました。

第1期の5年が過ぎ、第2期となることから役員体制を大幅に入れ替え、若返り人事となりました。



立ち上げからの5年間を振り返る原田憲一郎氏

平成24年度役員

代　表	黒瀬和美
副代表	原田昭雄
	原田哲夫
委　員	原田孝夫
	原田信義
	杉山　均
	片山静市
	原田稔裕
	本田　昇
	重富博文
監　査	原田広文
	中村丈二
書記・会計	原田茂樹